

発行所
カトリック福江教会
広報委員会
五島市末広町 3-6
☎ 0959 (72) 3957
●ホームページ●
<http://fukuechurch.jimdo.com>

「学業と信心業」 同時に鍛えてほしい

主任司祭 中田輝次

他愛のない話からです。自室に「踏み台」があつて、たまにこれで運動をしています。階段一段分くらいの高さで、乗ったり降りたりして足を鍛えます。しかし意識しないでいると、必ず「利き足」から乗って、降りてしまいます。これでは、両足を均等に鍛えることにならないのです。ご存知でしたか？



とが必要なので、足を鍛えながら、同時に頭も鍛える運動と言えます。神学生時代、特に小神学生時代、私は運動にまったく興味がありませんでした。「頭だけ」を鍛えていました。成績は学年三番四番あたりでしたが、頭でっかちの神学生でした。もしスポーツで体を鍛えることをもう

少し取り入れていたら、頭と体、均等に鍛えられたバランスの良い神学生・司祭になっていたでしょう。残念ですが、過去には戻れません。そこでお願いです。今まさに中学生高校生という皆さん。何かを鍛えるときには、意識的に正反対と思える部分も鍛えてください。人には「心」と「体」があります。「知力」を鍛えたいなら「体力」も鍛えることを考えてください。「学業」と言い換えて考えるなら、「信心業」も鍛えてください。

学校ではさまざまな公式や定理を学び、暗記するでしょう。それと同じくらい、祈禱書の祈りを覚えてください。おそらく学校で学ぶ公式・定理は、人生の半分も助けてはくれません。それに比べ、祈禱書の祈りの中で見つける「定理」は、生涯にわたってあなたを助けてくれるでしょう。

もし、この原稿を読んでいる中学生高校生（小学生？）がいたら、祈禱書二六六頁「聖母の御保護を求むる祈り」を開いてください。「慈悲深き童貞マリア、御保護に寄りすがりて御助力を求め、あえて御取次を願える者、一人として棄てられしこと、古より今に至るまで世に聞えざ

るを思い給え。」これは、祈りが教えてくれる定理のほんの一例です。中学生高校生の時代に、将来の目標を立てる人は多いでしょう。中田神父も、中学生の時に「司祭になりたい」という目標を立てました。どんな目標でも構いません。その目標にたどり着くまで、そしてたどり着いた目標を完成させるまであなたを助けてくれるのは、「学業」から見つけた定理でしょうか？ それとも「信心業」から見つけた定理でしょうか？

おながが出ました

助任司祭 稲田祐馬

この夏、おながが出てくるね、とよく言われるようになりました。半袖になって、自分でもおながが出たなあと思います。子どものころはガリガリだったので、まさか自分のおながが出ることになるとは思いませんでした。司祭団のマラソン大会も開催されることになりました。涼しくなったら走りましょう。日この頃です。

「からだの脂肪は落とせても、心の脂肪は落ちにくい」。元メジャー



とは、能楽の大家である世阿弥の言葉だったようです。普通は、始めた時の新鮮な気持ちを忘れないように、という意味で使われますが、世阿弥

リーガーのイチロー選手の言葉です。神学生の時にこの言葉をきいて、からだはともかく、心の脂肪はつけないようにしないと、と思ったものですが、司祭になって心の脂肪もつき始めたようです。心の脂肪を落とす方法はきつと、絶えず悔い改めることにあるのかなと思います。ルルドのマリア様は神さまによる癒しをもたらしてくださって、癒しが注目されますが、ルルドの精神は回心です。井持浦教会にもお世話になっているわたしにとって、ルルドのマリア様はこれからも回心の大事さを思い出させてくださることでしょう。

また、司祭としての歩みの中で磨きをかけていく自分の「初心」を思うと、叙階前の黙想で出会った「霊」によって始めたのに、肉によって仕上げようとするのか」というガラテヤの手紙の言葉が思い出されます。神さまがわたしたちに磨きをかけてくださることを祈りつつ。

はそれとは違う意味で使っています。世阿弥は「成長」を、何かを付け加えたり、積み重ねたりすることではなく、「磨きをかけていくことだ」ととらえています。なので世阿弥の言う「初心」とは、「磨きをかける前の状態」だということになります。さまざま可能性を秘めていたあの頃を思い出し、情性になったり視野が狭くなっている現状を打破していく、新たな可能性に踏み出していくための言葉になります。

中田神父様霊名のお祝い



七月二日(日)二番ミサ後に、トマス中田輝次神父様の霊名の祝賀式が執り行われた。信徒代表のお祝いの言葉の後、霊的花束が贈られた。

中田神父様より感謝の言葉として、「私が最初に赴任した助任司祭時代、主任司祭に司牧の計画を話したら「薬にも毒にもならんことはすんな」と言われました。何かはつきりと反応があり、効果のあるような事なのかどうか。してもしなくてもいい事はするなと言うことなのでしよう。信徒に役立つか、恩恵が受けられるか、よく考えて行動を取るようにしています。」「たくさんのお祈りありがとうございます。させられた方もありがとうございます(笑)これから少しでもお返し出来るように頑張っていきます。」と話された。

ミサの後には信徒会館で茶話会が開かれた。中田神父様、福江教会だ



けでなく下五島の地区長としても多忙な毎日をご過ごされている事と思えます。どうかお体を大切になさり、下五島の司牧に邁進してください。よろしくお願ひします！

◆使徒トマスについて◆
聖トマス(生年不明、七二年十二月二日没)はイエスの十二弟子の一人です。聖書にトマスの名前が出てくる記述で誰もが知っているのが、イエスが復活したのち弟子たちに現れた後の部分だと思えます。トマスはこの時彼らと一緒にいなかったため「その手に釘あとを見、わたしの指をその釘あとにさし入れ、また私の手をそのわきにさし入れてみなければ、決して信じない」と言っただけで、決して信じないと言った信じなかったのですが、その後トマスの前にもイエスは現れ「信じる者になりなさい」と言われたシーンへとつながります。

トマスはイエスの昇天後、布教のためインドへと向かったといわれており、最後は南インドで殉教しました。

聖母祭&夜市

2023

8月13日(日)



八月十三日(日)午後五時より、福江教会境内にて聖母祭・夜市が行われた。もともとは、神学生の信徒への紹介、周知と支援を目的として始まった聖母祭・夜市。近年は災害等で被災された方々への支援や、信徒同志の交流など多様な目的のもと行われてきた。コロナ禍での自粛を経て四年ぶりの開催となった聖母祭・夜市は、通常より規模を縮小し時間も短縮されたものの、多くの方々が集まり久しぶりに賑やかな小教区の行事となった。

屋台では前回までと同じく修道院の菓子類、経済問題はかき氷、福祉委員会はカレー、生涯養成委員会はウインナーと焼きとうもろこし、典礼委員会は焼きそば、召命委員会は焼き鳥が用意された。

青少年委員会と中高生会は子供たち向けのゲームコーナー等に加え、今回は青年会の屋台が出版された。内容はクレープやコーヒーに、ベトナムの屋台定番料理であるバインチャンヌンという珍しいメニューがあり、多くの方が訪れていた。

出し物では、子供たちの合唱や中田神父様による一五一会という楽器の演奏と歌、稲田神父様、西田神父様のオンステージなどで盛り上がった。特に、神父様と評議員の皆さんによる「ドラえもんを描いてみよう」のコーナーでは、様々な出来映えのドラえもんが登場して会場に笑いや歓声が起こっていた。最後に福引きや菓子まきをして終了となった。



四年ぶりの聖母祭が神父様、シスター方や各評議員の皆さんを始め、沢山の方々の協力

により無事に終了出来たことに感謝します。皆さんお疲れさまでした。今回の収益は、待降節に行っている教会のイルミネーションの補修等に活用します。

来年はもっと多くの方々が参加し、今年以上に盛り上がる聖母祭・夜市になることを願っています。



青少年委員会のゲームコーナー



青年会の屋台



助任司祭お二人の力強い熱唱でした。



中田神父様は懐かしい松田聖子の曲を披露!



ドラえもんに見えますかあ?

西田神父様霊名のお祝い



六月十一日(日)二番ミサ後に、パドアの聖アントニオ西田祐尚神父様の霊名のお祝い式が行われた。信徒代表として岩下議長、子供代表として熊川君よりお祝いのあいさつがあり、その後花束と霊的花束が贈られた。

西田神父様よりお礼の言葉として「早いもので二〇二二年三月に福江教会に来て丸二年たち、三年目になりました。毎年、霊名のお祝いをして貰うたびに司祭である事を思い起こす日になっています。本当にさまざまな事がありました。福江小教会や浜脇教会のみなさんに支えられていると実感しています。」

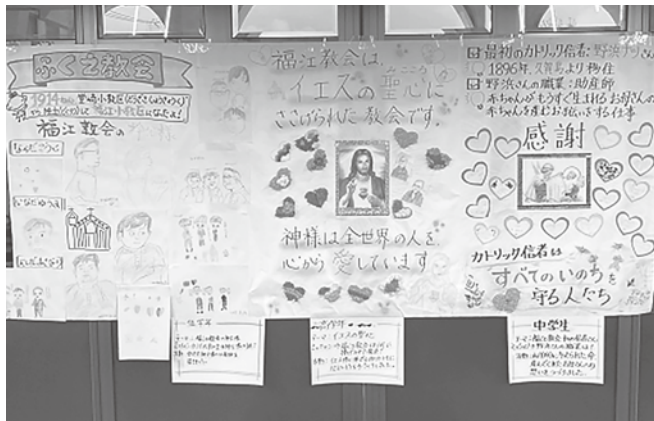
「まだ三年目で、駆け出しの司祭人生がやっと二歩目を踏み出した、歩き出したと思っています。これからも確実に司祭としての人生をしっかりと歩んでいきたいと思えます。」との言葉があった。ミサ後に、信徒会館にて茶話会が行われた。

下五島地区合同黙想会

夏休みの始まりとともに、今年も下五島地区合同黙想会がありました。

今年はわたしたちの教会の「足跡」をたどる―mission旅の終わりの150周年―をテーマに、下五島地区にある教会や今は跡地となっている教会のことについて学びました。

午前中はそれぞれの小教会の教会について学び、そのことをまとめる作業をしました。午後から午前中に作業した教会紹介の資料を



後日、子供たちの学びの成果は聖堂後方に展示されました。

使って、巨大双六をしました。下五島地区の教会や教会跡地をマス目にして、サイコロの目にあたった教会のmissionを解いていきました。

双六という形で下五島地区のミニ巡礼ができ、今のわたしたちに受け継がれてきた信仰や教会の歴史を学ばい黙想会となりました。



福祉委員会からのお知らせ

ごミサの送迎を始めます

ごミサに行きたくても車がない。

足が痛くて歩けない。と、困っている方いらっしゃいませんか？

福祉委員会で送迎をいたします。

ご希望の方は、申込用紙に

氏名・連絡先をご記入し、

回収ボックスに入れてください。

後日、福祉委員会から連絡いたします。

送迎は、毎月第2日曜日の2番ミサを予定しています

※申込用紙と回収ボックスは聖堂後方に設置しています。

同時に送迎を行って下さるボランティアの方も募集しています。「ミサのついでに乗せてもいいよ。」という方は是非ともご協力をお願いします！